

2009 年

5 月 16 日（土曜日） - 支え合いこそ活性化への回天の力 「峰山ロータリークラブ
50 周年記念式典」 -

本日、峰山ロータリークラブの 50 周年記念式典が域内外から多数の来賓もご出席され、盛大に開催されました。

峰山ロータリークラブ様は、昭和 34 年にご設立されて以来、「奉仕の志」を高く掲げられて、各種講演会や様々な分野でのボランティア活動など、この間、丹後の発展のために大きなご貢献をいただき、榎田会長さん、歴代の会長、役員、会員の皆さんのご尽力に深く敬意を捧げます。

現下の大変厳しい経済社会の状況の中、住民生活や様々な活動の中に多少ならずいろんな影響が及ばざるをえないわけですが、そんな今だからこそ、本市のまちづくりの大きな柱であります、お一人お一人が互いに支えあい、たすけあい、与えあい、ともに生きる共生のまちづくり、決して誰ひとり置きざりにされない、市民全員みな兄弟姉妹のまちづくりを様々な分野でますます推進していくことが求められています。

私は、奉仕や支えあいというものは、その行為自体、大切なことはいまでもありませんが、それと同時に、奉仕や支えあいを通じて行い手と受け手、地域との間に“心が通い合う”喜び、心を共にする喜びが生まれ、それが知らず知らずのうちに自然、地域社会の中に広く波及をして、いろんな喜びや安心が生まれる、真の社会の活性化につながっていく、そんな大きな社会的な力を有しているように感じています。そして、よく産業社会の中でも「厳しい環境の中から事業や産業の発展が生まれる」といわれますが、このことは何も産業経済の領域だけの話ではなく、同様に、「厳しい環境の中から社会の発展が押し上げられる」ともいえるわけですが、私は、その場合のキーワードになるのが、「奉仕」や「支え合い」だと思っています。

すなわち、奉仕や支えあいは、“状況の厳しさ”をある面、食べて“社会的な活力”へと回天させる尊い触媒となるものであり、その意味で、今、このような厳しい社会状況の中だからこそ、奉仕や支えあいの働きとそこに籠められた真心こそが、厳しさの中から社会の発展をますます押し上げる回天の力となっていくと信じています。現下の厳しい状況の中で、奉仕の志を掲げられる峰山ロータリークラブ様が 50 周年の大きな御節目をお迎えになられますことは、この状況を畑や肥えにされ次の 50 年の新たな発展を展望されるうえで大変意義深いことと思いますとともに、京丹後の発展をますますリードいただけますよう、心から確信と祈念を申し上げます。